第6章 構想区域別の地域医療構想

1 福井 • 坂井地域医療構想

福井・坂井圏域は、県北西部に位置し、面積は県全体の22.9%にあたる957km²となっています。また、人口は県全体の約半数を占め、40万9千人(2010年(平成22年))となっています。

当圏域は、中央部をほぼ南北にJR北陸本線、福井市から東に向かって大野市へアクセスするJR越美北線が走っています。また、JR北陸本線に並行して南北に縦断している北陸自動車道、国道8号をはじめとして、158号、305号など主要な道路が各市町を結び、本県においては、鉄道、道路交通網等が整備された地域となっています。

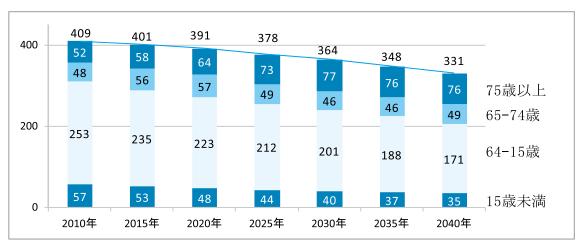
この圏域は、福井県内の病床数(一般・療養)の約6割を占めており、特に特定機能病院や地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院など主な機能が集中しています。奥越圏域や丹南圏域のほか、石川県南部から多くの入院患者を受け入れています。

(1)人口の推移

この圏域は、一貫して人口が減少し、2025年(平成37年)には、37万8千人となると見込まれています。生産年齢人口は21万2千人となる一方、65歳以上の人口は、2010年(平成22年)から22.3%増加し、12万2千人となります。これにより、3.1人に1人が65歳以上となると推計されています。

2040 年(平成 52 年)には、総人口が 33 万千人となることが見込まれています。生産年齢人口は、約 17 万千人まで減少する一方で、高齢者は約 12 万 5 千人となることから、2.6 人に 1 人が 65 歳以上となると見込まれています。

(単位:千人)

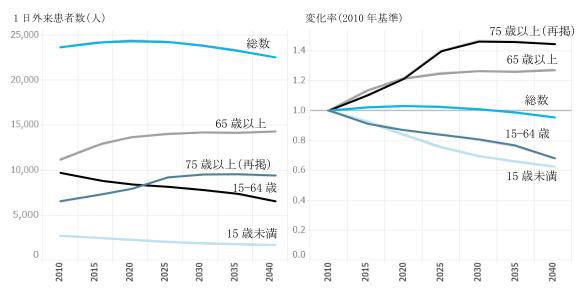


出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(2) 外来患者数の見通し

福井・坂井圏域の患者総数は、2020年(平成32年)まで増え続け、その後は減少していく見込みです。年齢別では、高齢化に伴い65歳以上の患者は増えますが、64歳以下の患者は減少していく見込みです。一般的に高齢者に多い「脳血管疾患」が大きく増加する見込みです。

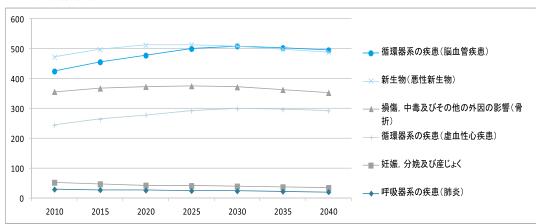
〈年齢別患者数の推移〉



出典:「地域別人口・入院患者数推計」(https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/)

〈疾患別患者数の推移〉

1日外来患者数(人)

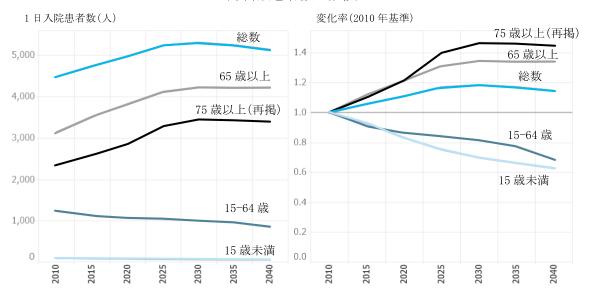


(AJAPA(All Japan Areal Population-change Analyses): 地域別人口変化分析ツール)

(3)入院患者数の見通し

病床の機能分化等をしない場合は、福井・坂井圏域の患者総数は、2030年(平成42年)まで増え続ける見込みです。年齢別では、高齢化に伴い65歳以上の患者は増えますが、64歳以下の患者は減少していく見込みです。高齢者の増加に伴い、「脳血管疾患」や誤嚥性の「肺炎」、転倒などによる「骨折」が増える見込みです。

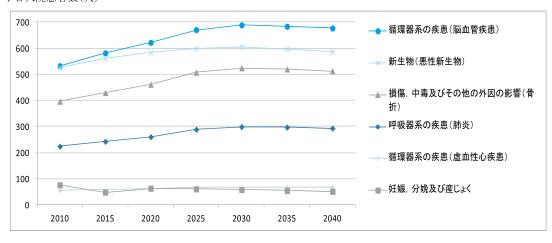
〈年齢別患者数の推移〉



出典:「地域別人口・入院患者数推計」(https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/)

〈疾患別患者数の推移〉

1日入院患者数(人)



(AJAPA(All Japan Areal Population-change Analyses): 地域別人口変化分析ツール)

(4) 要介護認定者数の見通し

要介護認定者数は、2025年(平成37年)には、平成26年度比で31.5% 増の25,413人となる見込みです。特に要介護3の増加率が高く、2025年(平成37年)には、69.6%増の4,657人となる見込みです。

福井•坂井 (単位:人)

1100	田月 次月						(半四・八)		
		平成	平成	平成	平成	伸び率	平成	平成	伸び率
		26年度	27年度	28年度	29年度	(H29/26)	32年度	37年度	(H37/26)
第	1号被保険者	18,968	19,736	20,559	21,395	12.8%	23,296	25,108	32.4%
	要支援1	2,128	2,195	2,301	2,398	12.7%	2,583	2,798	31.5%
	要支援2	2,027	2,104	2,180	2,253	11.1%	2,502	2,676	32.0%
	要介護1	3,930	3,991	4,066	4,143	5.4%	4,314	4,686	19.2%
	要介護2	3,420	3,616	3,815	4,019	17.5%	4,469	4,790	40.1%
	要介護3	2,746	3,073	3,408	3,756	36.8%	4,329	4,657	69.6%
	要介護4	2,755	2,817	2,886	2,955	7.3%	3,131	3,374	22.5%
	要介護5	1,962	1,940	1,903	1,871	▲ 4.6%	1,968	2,127	8.4%
第	2号被保険者	351	330	316	311	▲ 11.4%	307	305	▲ 13.1%
要	介護認定者計	19,319	20,066	20,875	21,706	12.4%	23,603	25,413	31.5%
65	5歳以上人口	107,806	109,703	111,333	112,755	4.6%	115,417	116,520	8.1%
40)~64歳人口	135,343	134,501	133,607	132,670	▲ 2.0%	130,532	126,949	▲ 6.2%
		•			•				

※人口は、被保険者数

出典:福井県「老人福祉計画・介護保険事業支援計画」(平成27年度~平成29年度)

(5) 2013年(平成25年)の医療機能別の入院患者の流出

4 医療機能の区域内完結率 (入院を必要とする患者のうち、患者が住む構想区域内の病院に入院している患者の割合)が高く、90%を超えています。(※下記の表中の「*」は、0.1 人以上 10 人未満で非公表)

○実数

	医療機能		医療機関所在地						
()	単位:人/日)		自	県		計			
(-	平位・八一口	福井•坂井	奥越	丹南	嶺南	ĒГ			
患	高度急性期	267.9	*	*	*	267.9			
者	急性期	906.3	*	*	*	906.3			
住所	回復期	1,053.4	*	*	*	1,053.4			
地	慢性期	789.4	*	40.6	*	830.0			

○患者住所地ベース 流出入

どの圏域の医療機関に入院しているかの割合

		医療機関所在地						
	医療機能		自	県		⇒t.		
		福井•坂井	奥越	丹南	嶺南	計		
患	高度急性期	100.0%	*	*	*	100.0%		
者	急性期	100.0%	*	*	*	100.0%		
住所	回復期	100.0%	*	*	*	100.0%		
地	慢性期	95.1%	*	4.9%	*	100.0%		

出典:必要病床数等推計ツール

(6) 将来における入院患者数・必要病床数、居宅等における医療の必要量

①2025年の医療需要(入院患者数)と必要病床数

	2025 年における	2025 年に	おける医療供給(医療	提供体制)	
	医療需要	現在の医療提供	将来のあるべき医	病床の必要量(必	
	(福井・坂井区域	体制が変わらな	療提供体制を踏ま	要病床数)	
	に居住する患者	いと仮定した場	え他の構想区域に	([ウ]を基に病床	
	の医療需要)	合の他の構想区	所在する医療機関	利用率等により算	
医療機能		域に所在する医	により供給される	出される病床数)	
		療機関により供	量を増減したもの		
		給される量を増			
		減したもの			
	(単位:人/日)	(単位:人/日)	(単位:人/日)	(単位:床)	
	[ア]	[イ]	[ウ]	[エ]	
高度急性期	3 0 3	4 4 1	4 4 1	588	
急性期	1, 070	1, 377	1, 318	1, 691	
回復期	1, 288	1, 549	1, 352	1, 502	
慢性期	783	802	8 0 1	8 7 1	
合 計	3, 444	4, 169	3, 912	4, 652	

^{※ [}工] 病床利用率等 高度急性期:75%、急性期:78% 回復期:90% 慢性期:92%

②居宅等における医療の必要量

(単位:人)

2025年の居宅等における医療の必要量(在宅医療等)	4, 751
(再掲)在宅医療等のうち訪問診療分	1, 697

(7) 目指すべき医療提供体制および実現のための施策

- ※ 第5章「目指すべき医療提供体制の実現に向けて」の施策を踏まえ、福井・坂 井圏域における課題解決に向け、<u>特に重点化すべき施策について記載</u>しています。
 - 中核的な病院は、救急患者の受入れやリスクの高い分娩への対応 など地域貢献を推進するとともに、平均在院日数を短縮し、地域の 医療機関への早期の紹介・転院を促進します。
 - 中核的な病院の役割分担と連携を検討し、県下全域における効率 的な医療提供体制を構築します。
 - 地域の医療機関は、中核的な病院と連携を図りながら、急性期の 治療を終えた患者に対し、一貫した継続治療が実施できるよう、地 域連携クリティカルパスや、ふくいメディカルネットの活用を促進 します。
 - 急性期から回復期、在宅医療に至るまで、一連のサービスの役割 分担と連携を進め、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア 病棟など不足する病棟を整備します。

2 奥越地域医療構想

奥越圏域は、県東部に位置し、人口は県全体の1割弱の6万1千人(2010年(平成22年))ですが、面積は県全体の27%にあたる1,126km²となっています。

当圏域は国道 157 号、158 号などの主要道路と、えちぜん鉄道やJR越美 北線などによって、福井市等に繋がっています。また、平成 28 年度の中部 縦貫自動車道の県内区間の開通により、より一層のアクセス向上が期待さ れています。

基幹となる福井勝山総合病院は、平成26年度から独立行政法人地域医療機能推進機構が運営しており、救急・災害医療をはじめ、地域の医療・介護の機能を活かした地域包括ケアに取り組んでいます。

(1)人口の推移

この圏域は、一貫して人口が減少し、2025年(平成37年)には、約4万9千人となると見込まれています。生産年齢人口は2万5千人まで減少する一方で、65歳以上の人口は、2010年(平成22年)から6%増加して2万人となり、2.5人に1人が65歳以上となることが見込まれています。

2040年(平成52年)には、総人口が3万8千人となることが見込まれています。生産年齢人口は約1万9千人まで減少する一方で、高齢者は約1万6千人となることから、2.4人に1人が65歳以上になると見込まれています。

61 57 60 53 10 49 11 46 11 42 8 12 38 9 40 12 9 12 8 75歳以上 7 6 65-74歳 5 35 31 20 28 25 23 21 19 64-15歳 5 15歳未満 5 2010年 2015年 2020年 2025年 2030年 2035年 2040年

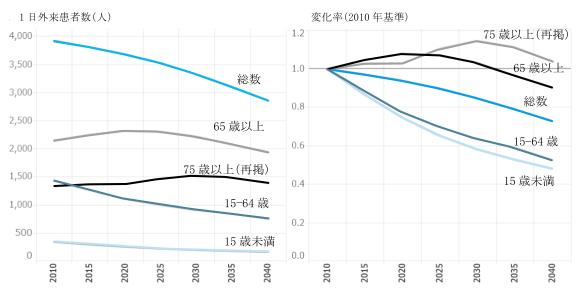
(単位:千人)

出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

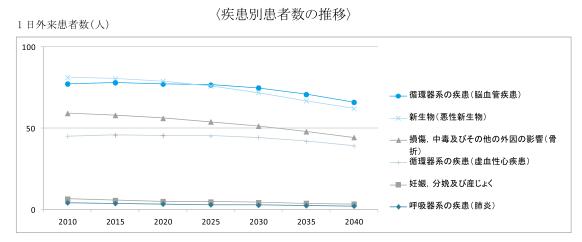
(2) 外来患者数の見通し

奥越圏域の患者総数は、既に減少が始まっており、今後も減少していく 見込みです。年齢別では、高齢化に伴い 65 歳以上の患者は 2020 年から 2030 年頃まで増えますが、64 歳以下の患者は一貫して減少していく見込みです。

〈年齢別患者数の推移〉



出典:「地域別人口・入院患者数推計」(https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/)

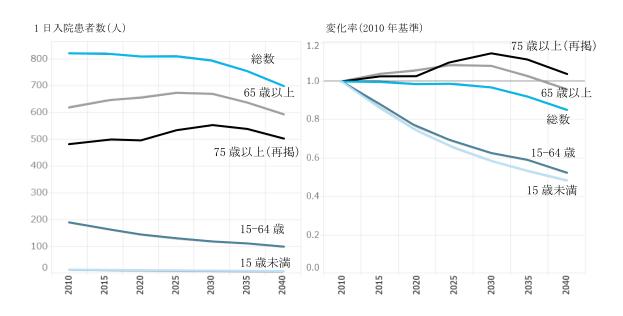


(AJAPA(All Japan Areal Population-change Analyses): 地域別人口変化分析ツール)

(3)入院患者数の見通し

奥越圏域の患者総数は、既に減少が始まっており、今後も減少していく 見込みです。年齢別では、高齢化に伴い 65 歳以上の患者は当分の間、増え ますが、64 歳以下の患者は一貫して減少していく見込みです。

〈年齢別患者数の推移〉



出典:「地域別人口・入院患者数推計」(https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/)

〈疾患別患者数の推移〉

1日入院患者数(人) ← 循環器系の疾患(脳血管疾患) 100 新生物(悪性新生物) ▲ 損傷, 中毒及びその他の外因の影響(骨 → 呼吸器系の疾患(肺炎) 50 ── 循環器系の疾患(虚血性心疾患) ─■─ 妊娠,分娩及び産じょく 2010 2015 2020 2025 2030 2035 2040

(AJAPA(All Japan Areal Population-change Analyses): 地域別人口変化分析ツール)

(4) 要介護認定者数の見通し

要介護認定者数は、2025年(平成37年)には、平成26年度比で30.2% 増の4,774人となる見込みです。特に要支援1の増加率が高く、2025年(平成37年)には、50.7%増の461人となる見込みです。

奥越 (単位:人)

	平成	平成	平成	平成	伸び率	平成	平成	伸び率
	26年度	27年度	28年度	29年度	(H29/26)	32年度	37年度	(H37/26)
第1号被保険者	3,600	3,840	3,982	4,143	15.1%	4,509	4,695	30.4%
要支援1	306	351	386	420	37.3%	451	461	50.7%
要支援2	530	572	604	637	20.2%	700	715	34.9%
要介護1	516	575	621	668	29.5%	726	746	44.6%
要介護2	738	784	801	820	11.1%	901	938	27.1%
要介護3	522	537	536	539	3.3%	565	587	12.5%
要介護4	510	542	566	600	17.6%	695	753	47.6%
要介護5	478	479	468	459	▲ 4.0%	471	495	3.6%
第2号被保険者	67	69	76	88	31.3%	85	79	17.9%
要介護認定者計	3,667	3,909	4,058	4,231	15.4%	4,594	4,774	30.2%
65歳以上人口	19,168	19,692	19,800	19,903	3.8%	20,221	19,775	3.2%
40~64歳人口	19,559	18,764	18,321	17,876	▲8.6%	16,548	14,952	▲ 23.6%

※人口は、被保険者数

出典:福井県「老人福祉計画・介護保険事業支援計画」(平成27年度~平成29年度)

(5) 2013年(平成25年)の医療機能別の入院患者の流出

高度急性期から回復期までの区域内完結率(入院を必要とする患者のうち、患者が住む構想区域内の病院に入院している患者の割合)が低く、特に高度急性期については73.9%が福井・坂井圏域に流出しています。(※下記の表中の「*」は、0.1人以上10人未満で非公表)

○実数

	医療機能		医療機関所在地						
α	並 単位:人/日)		自	県		計			
(-	丰位、八/日/	福井•坂井	奥越	丹南	嶺南	司			
患	高度急性期	34.6	12.2	*	*	46.8			
者	急性期	84.0	81.1	*	*	165.1			
住所	回復期	73.6	99.1	*	0.0	172.7			
地	慢性期	17.7	90.2	*	*	108.0			

○患者住所地ベース 流出入

どの圏域の医療機関に入院しているかの割合

		医療機関所在地						
	医療機能		自	県		∌I.		
		福井•坂井	奥越	丹南	嶺南	計		
患	高度急性期	73.9%	26.1%	*	*	100.0%		
者住	急性期	50.9%	49.1%	*	*	100.0%		
所	回復期	42.6%	57.4%	*	0.0%	100.0%		
地	慢性期	16.4%	83.6%	*	*	100.0%		

出典:必要病床数等推計ツール

(6) 将来における入院患者数・必要病床数、居宅等における医療の必要量

①2025年の医療需要(入院患者数)と必要病床数

	2025 年における	2025 年に	おける医療供給(医療	提供体制)	
	医療需要	現在の医療提供	将来のあるべき医	病床の必要量(必	
	(奥越区域に居	体制が変わらな	療提供体制を踏ま	要病床数)	
	住する患者の医	いと仮定した場	え他の構想区域に	([ウ]を基に病床	
	療需要)	合の他の構想区	所在する医療機関	利用率等により算	
医療機能		域に所在する医	により供給される	出される病床数)	
		療機関により供	量を増減したもの		
		給される量を増			
		減したもの			
	(単位:人/日)	(単位:人/日)	(単位:人/日)	(単位:床)	
	[ア]	[イ]	[ウ]	[エ]	
高度急性期	4 5	1 2	1 2	1 6	
急性期	164	8 5	101	1 2 9	
回復期	175	106	163	181	
慢性期	8 8	7 3	8 6	9 3	
合 計	472	276	3 6 2	4 1 9	

^{※ [}工] 病床利用率等 高度急性期:75%、急性期:78% 回復期:90% 慢性期:92%

②居宅等における医療の必要量

(単位:人)

2025年の居宅等における医療の必要量(在宅医療等)	7 6 0
(再掲)在宅医療等のうち訪問診療分	2 6 3

(7) 目指すべき医療提供体制および実現のための施策

- ※ 第5章「目指すべき医療提供体制の実現に向けて」の施策を踏まえ、奥越圏域における課題解決に向け、特に重点化すべき施策について記載しています。
 - がん医療など高度な医療は、福井・坂井区域の中核的な病院と連携を図りながら、急性期の治療を終えた患者は、可能な限り奥越地域で医療を受けられるよう、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟など地域で不足する病棟を整備します。
 - 福井・坂井区域の医療機関に多くの患者が流出している状況を考慮し、今後の医療需給の改善に向け、住民の地元医療機関の利用促進に向けた普及啓発を行います。
 - 急性期から回復期、在宅医療に至るまで、切れ目ない医療提供体制を構築するため、地域連携クリティカルパスの活用、およびふくいメディカルネットの参加機関の拡大や利用を促進します。
 - 緊急性の高い脳卒中等の救急医療については、可能な限り構想区域内で提供できるよう体制を確保します。
 - 誰もが身近な地域で安心して医療が受けられるよう、医師や看護師、薬剤師等の医療従事者の確保に取り組みます。
 - 訪問看護の利用者の増加やサービス提供の高度化に対応するため、 看護師の確保や訪問看護ステーションの連携を推進します。

3 丹南地域医療構想

丹南圏域は、福井県のほぼ中央に位置し、日野川流域に広がる平野部と東西の山間部で構成されています。圏域の面積は、県全体の 24.1%にあたる $1,008 \,\mathrm{km}^2$ となっています。また、人口は $19\$ 万1千人(2010年(平成 $22\$ 年))であり、県全体の 23.7%を占めています。

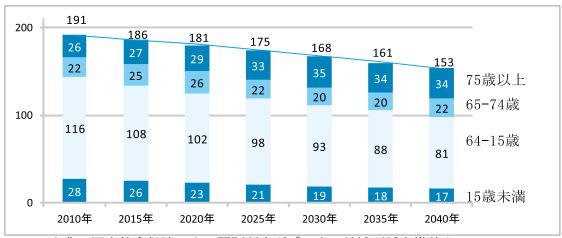
当圏域は、中央部をほぼ南北に国道8号をはじめ、JR北陸本線、北陸自動車道が縦断しています。また、越前海岸沿いを通る国道305号、丹生郡から越前市、南条郡を通って滋賀県にぬける国道365号、越前海岸から圏域を横断して岐阜県にぬける国道417号があり、交通の利便性が高い地域となっています。

地域の中核的な公立病院である公立丹南病院は、平成24年5月に改築し、 救急、産科、小児科、透析等の機能を充実しています。

(1)人口の推移

この圏域は、一貫して人口が減少し、2025年(平成37年)には、17万5千人となると見込まれています。生産年齢人口は約9万8千人まで減少する一方で、65歳以上の人口は、2010年(平成22年)から17.5%増加し、5万5千人となると見込まれています。これにより、3.2人に1人が65歳以上となることが見込まれています。

2040年(平成52年)には、総人口が15万3千人となることが見込まれています。生産年齢人口は8万1千人まで減少する一方で、高齢者は5万6千人となることから、2.7人に1人が65歳以上となると見込まれています。

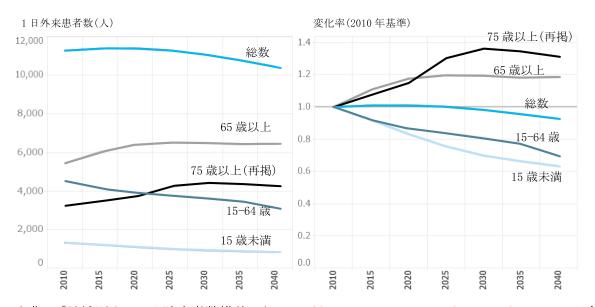


出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(2) 外来患者数の見通し

丹南圏域の患者総数は、2020年(平成32年)まで増え続け、その後は減少していく見込みです。年齢別では、高齢化に伴い65歳以上の患者は増えますが、64歳以下の患者は減少していく見込みです。高齢者の増加に伴い、「脳血管疾患」が増える見込みです。

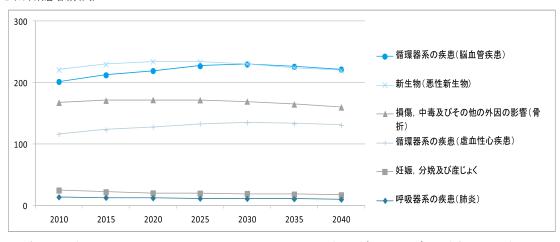
〈年齢別患者数の推移〉



出典:「地域別人口・入院患者数推計」(https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/)

〈疾患別患者数の推移〉

1日外来患者数(人)

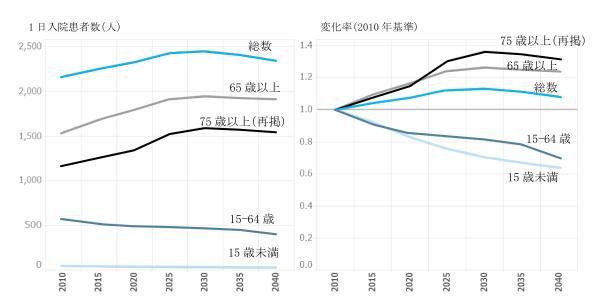


(AJAPA(All Japan Areal Population-change Analyses): 地域別人口変化分析ツール)

(3)入院患者数の見通し

病床の機能分化等をしない場合は、丹南圏域の患者総数は、2030年(平成42年)まで増え続け、その後は減少していく見込みです。年齢別では、高齢化に伴い65歳以上の患者は増えますが、64歳以下の患者は減少していく見込みです。高齢者の増加に伴い、「脳血管疾患」や誤嚥性の「肺炎」、転倒などによる「骨折」が増える見込みです。

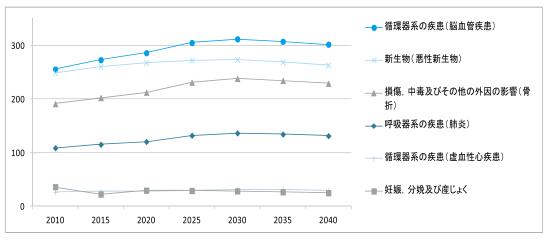
〈年齢別患者数の推移〉



出典:「地域別人口・入院患者数推計」(https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/)

〈疾患別患者数の推移〉

1日入院患者数(人)



(AJAPA(All Japan Areal Population-change Analyses): 地域別人口変化分析ツール)

(4) 要介護認定者数の見通し

要介護認定者数は、2025年(平成37年)には、平成26年度比で27.4% 増の11,513人となる見込みです。

丹南 (単位:人)

7 1 1 1 1								(平位・ノい)
	平成	平成	平成	平成	伸び率	平成	平成	伸び率
	26年度	27年度	28年度	29年度	(H29/26)	32年度	37年度	(H37/26)
第1号被保険者	8,850	9,113	9,523	9,955	12.5%	10,775	11,260	27.2%
要支援1	563	575	616	659	17.1%	732	766	36.1%
要支援2	1,307	1,399	1,501	1,594	22.0%	1,719	1,774	35.7%
要介護1	1,623	1,630	1,681	1,727	6.4%	1,836	1,885	16.1%
要介護2	1,864	1,978	2,128	2,273	21.9%	2,495	2,621	40.6%
要介護3	1,409	1,406	1,419	1,446	2.6%	1,543	1,621	15.0%
要介護4	1,262	1,337	1,417	1,514	20.0%	1,682	1,792	42.0%
要介護5	822	788	761	742	▲ 9.7%	768	801	▲2.6%
第2号被保険者	190	215	227	247	30.0%	257	253	33.2%
要介護認定者計	9,040	9,328	9,750	10,202	12.9%	11,032	11,513	27.4%
65歳以上人口	50,888	52,087	52,946	53,487	5.1%	54,228	53,981	6.1%
40~64歳人口	61,269	60,554	60,036	59,656	▲ 2.6%	58,720	56,955	▲ 7.0%

※人口は、被保険者数

出典:福井県「老人福祉計画・介護保険事業支援計画」(平成27年度~平成29年度)

(5) 2013年(平成25年)の医療機能別の入院患者の流出

高度急性期から急性期までの区域内完結率(入院を必要とする患者の うち、患者が住む構想区域内の病院に入院している患者の割合)が低く、 特に高度急性期については68.4%が福井・坂井圏域に流出しています。 (※下記の表中の「*」は、0.1人以上10人未満で非公表)

○実数

	医療機能		医療機関所在地						
(自	県		≑L			
(.	単位:八/□)	福井•坂井	奥越	丹南	嶺南	計			
患	高度急性期	77.2	*	35.7	*	112.9			
者	急性期	169.3	*	249.8	*	419.1			
住所	回復期	136.5	*	331.1	*	467.7			
地	慢性期	29.9	0.0	449.0	15.1	494.0			

○患者住所地ベース 流出入

どの圏域の医療機関に入院しているかの割合

医療機能		医療機関所在地						
			∌ 1.					
		福井•坂井	奥越	丹南	嶺南	計		
患	高度急性期	68.4%	*	31.6%	*	100.0%		
者	急性期	40.4%	*	59.6%	*	100.0%		
住所	回復期	29.2%	*	70.8%	*	100.0%		
地	慢性期	6.0%	0.0%	90.9%	3.1%	100.0%		

出典:必要病床数等推計ツール

(6) 将来における入院患者数・必要病床数、居宅等における医療の必要量

①2025年の医療需要(入院患者数)と必要病床数

	2025 年における	2025 年に	おける医療供給(医療	提供体制)
	医療需要	現在の医療提供	将来のあるべき医	病床の必要量(必
	(丹南区域に居	体制が変わらな	療提供体制を踏ま	要病床数)
	住する患者の医	いと仮定した場	え他の構想区域に	([ウ]を基に病床
	療需要)	合の他の構想区	所在する医療機関	利用率等により算
医療機能		域に所在する医	により供給される	出される病床数)
		療機関により供	量を増減したもの	
		給される量を増		
	(単位:人/日)	減したもの	(単位:人/日)	(単位:床)
		(単位:人/日)		
	[ア]	[イ]	[ウ]	[エ]
高度急性期	1 2 2	4 1	4 1	5 5
急性期	468	2 9 5	3 3 0	4 2 3
回復期	5 3 9	4 0 5	5 1 9	5 7 7
慢性期	3 4 4	3 5 3	3 5 5	386
合 計	1, 473	1, 094	1, 245	1, 441

^{※ [}工] 病床利用率等 高度急性期:75%、急性期:78% 回復期:90% 慢性期:92%

②居宅等における医療の必要量

(単位:人)

2025年の居宅等における医療の必要量(在宅医療等)	2, 374
(再掲) 在宅医療等のうち訪問診療分	7 7 2

(7) 目指すべき医療提供体制および実現のための施策

- ※ 第5章「目指すべき医療提供体制の実現に向けて」の施策を踏まえ、丹南圏域 における課題解決に向け、<u>特に重点化すべき施策について記載</u>しています。
 - がん医療など高度な医療は、福井・坂井区域の中核的な病院と連携を図りながら、急性期の治療を終えた患者は、可能な限り丹南地域で医療を受けられるよう、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟など地域で不足する病棟を整備します。
 - 福井・坂井区域の医療機関に多くの患者が流出している状況を考慮し、今後の医療需給の改善に向け、住民の地元医療機関の利用促進に向けた普及啓発を行います。
 - 急性期から回復期、在宅医療に至るまで、切れ目ない医療提供体制を構築するため、地域連携クリティカルパスの活用、およびふくいメディカルネットの参加機関の拡大や利用を促進します。
 - 緊急性の高い脳卒中や急性心筋梗塞等の救急医療については、可能な限り構想区域内で提供できるよう体制を確保します。
 - 誰もが身近な地域で安心して医療が受けられるよう、医師や看護 師、薬剤師等の医療従事者の確保に取り組みます。
 - 訪問看護の利用者の増加やサービス提供の高度化に対応するため、 看護師の確保や訪問看護ステーションの連携を推進します。

4 嶺南地域医療構想

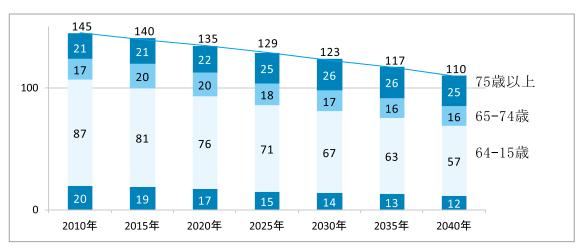
嶺南圏域は、福井県の南西部に位置し、南に滋賀県、南西に京都府と接し、北は日本海に面している地域です。面積は県全体の 26.2%にあたる1,099km²となっており、県内の他の3圏域とほぼ同じです。人口は14万5千人(2010年(平成22年))であり、県全体の18%を占めています。

当圏域は、東西に国道 27 号線や J R 小浜線が横断しており、また、舞鶴 若狭自動車道の開通により福井市や京都府(舞鶴)への交通の利便性は高まっています。

この圏域は、奥越や丹南圏域に比べ、医療機能が集中している福井市内 に地理的、距離的に遠隔となっており、これを補完するため、新型(ミニ) 救命救急センターを整備するなど救急医療等の充実を図っています。

(1)人口の推移

この圏域は、一貫して人口が減少し、2025年(平成37年)には、12万9千人となると見込まれています。生産年齢人口は7万1千人まで減少する一方で、65歳以上の人口は、2010年(平成22年)から13.4%増加し、4万3千人となることから、3人に1人が65歳以上となると見込まれています。2040年(平成52年)には、総人口が11万人となることが見込まれます。生産年齢人口は5万7千人まで減少する一方で、高齢者は4万1千人となることから、2.7人に1人が65歳以上になると見込まれています。

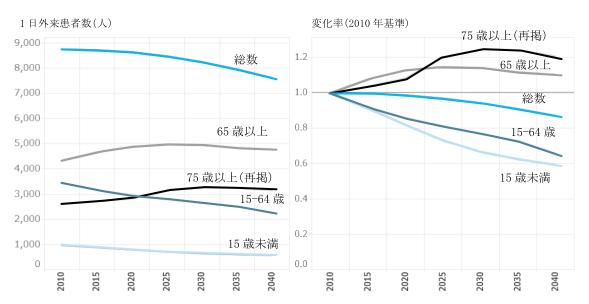


出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(2) 外来患者数の見通し

嶺南圏域の患者総数は、既に減少が始まっており、今後も減少していく 見込みです。年齢別では、高齢化に伴い 65 歳以上の患者は増えますが、64 歳以下の患者は減少していく見込みです。高齢者の増加に伴い、「脳血管疾 患」が増える見込みです。

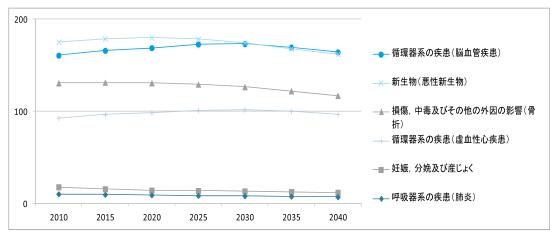
〈年代別患者数の推移〉



出典:「地域別人口・入院患者数推計」(https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/)

〈疾患別患者数の推移〉

1日外来患者数(人)

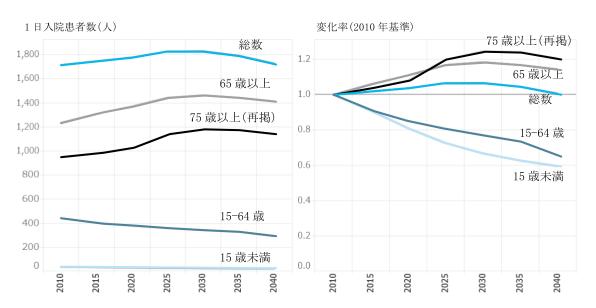


(AJAPA(All Japan Areal Population-change Analyses):地域別人口変化分析ツール)

(3)入院患者数の見通し

病床の機能分化等をしない場合は、嶺南圏域の患者総数は、2030年(平成42年)まで増え続け、その後は減少していく見込みです。年齢別では、高齢化に伴い65歳以上の患者は増えますが、64歳以下の患者は減少していく見込みです。高齢者の増加に伴い、「脳血管疾患」や誤嚥性の「肺炎」、転倒などによる「骨折」が増える見込みです。

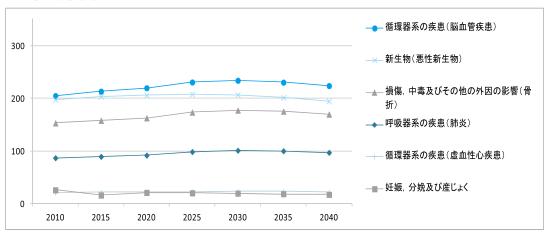
〈年齢別患者数の推移〉



出典:「地域別人口・入院患者数推計」(https://public.tableau.com/profile/kbishikawa#!/)

〈疾患別患者数の推移〉

1日入院患者数(人)



(AJAPA(All Japan Areal Population-change Analyses): 地域別人口変化分析ツール)

(4) 要介護認定者数の見通し

要介護認定者数は、2025年(平成37年)には、平成26年度比で23.3% 増の9,355人となる見込みです。

嶺南 (単位:人)

限	限用 ((単位:八)		
		平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	伸び率 (H29/26)	平成 32年度	平成 37年度	伸び率 (H37/26)
第	1号被保険者	7,444	7,745	8,068	8,462	13.7%	9,123	9,188	23.4%
	要支援1	660	704	764	818	23.9%	891	911	38.0%
	要支援2	1,088	1,148	1,218	1,287	18.3%	1,377	1,394	28.1%
	要介護1	1,319	1,365	1,418	1,477	12.0%	1,594	1,589	20.5%
	要介護2	1,385	1,444	1,512	1,596	15.2%	1,728	1,726	24.6%
	要介護3	1,112	1,146	1,181	1,234	11.0%	1,355	1,370	23.2%
	要介護4	1,038	1,064	1,091	1,128	8.7%	1,194	1,213	16.9%
	要介護5	842	874	897	922	9.5%	984	985	17.0%
第	2号被保険者	142	149	157	171	20.4%	181	167	17.6%
要	介護認定者計	7,586	7,894	8,225	8,633	13.8%	9,304	9,355	23.3%
65	歳以上人口	40,057	40,860	41,214	41,560	3.8%	41,886	41,394	3.3%
40)∼64歳人口	47,142	227,705	231,752	45,281	▲3.9%	43,655	40,721	▲ 13.6%

※人口は、被保険者数

出典:福井県「老人福祉計画・介護保険事業支援計画」(平成27年度~平成29年度)

(5) 2013年(平成25年)の医療機能別の入院患者の流出

高度急性期以外の区域内完結率(入院を必要とする患者のうち、患者が住む構想区域内の病院に入院している患者の割合)が高い状況です。 また、急性期、回復期の患者の約5%が中丹(舞鶴)に流出しています。 (※下記の表中の「*」は、0.1人以上10人未満で非公表)

○実数

	医療機能	医療機関所在地							
(医療機能 単位:人/日)		自	県外	計				
(-	単位,八/口/	福井•坂井	奥越	丹南	嶺南	中丹(舞鶴)	ĒΙ		
患	高度急性期	22.2	*	*	51.0	*	73.2		
者	急性期	38.2	*	*	225.6	14.3	263.9		
住所	回復期	33.5	*	*	279.3	13.5	312.8		
地	慢性期	*	*	*	267.6	*	267.6		

○患者住所地ベース 流出入

どの圏域の医療機関に入院しているかの割合

		医療機関所在地							
	医療機能		自	県外	計				
		福井•坂井	奥越	丹南	嶺南	中丹(舞鶴)	ΠĘ		
患	高度急性期	30.4%	*	*	69.6%	*	1.0		
者住	急性期	14.5%	*	*	85.5%	5.4%	1.0		
所	回復期	10.7%	*	*	89.3%	4.3%	1.0		
地	慢性期	*	*	*	100.0%	*	1.0		

出典:必要病床数等推計ツール

(6) 将来における入院患者数・必要病床数、居宅等における医療の必要量

①2025年の医療需要(入院患者数)と必要病床数

	2025 年における	2025 年に	おける医療供給(医療	提供体制)
	医療需要	現在の医療提供	将来のあるべき医	病床の必要量(必
	(嶺南区域に居	体制が変わらな	療提供体制を踏ま	要病床数)
	住する患者の医	いと仮定した場	え他の構想区域に	([ウ]を基に病床
	療需要)	合の他の構想区	所在する医療機関	利用率等により算
医療機能		域に所在する医	により供給される	出される病床数)
		療機関により供	量を増減したもの	
		給される量を増		
	(単位:人/日)	減したもの	(単位:人/日)	(単位:床)
		(単位:人/日)		
	[ア]	[イ]	[ウ]	[エ]
高度急性期	9 0	5 7	5 7	7 6
急性期	3 1 6	2 5 2	260	3 3 3
回復期	3 7 8	3 2 1	3 4 7	3 8 6
慢性期	2 2 9	2 7 5	261	284
合 計	1, 013	9 0 5	9 2 5	1, 079

^{※ [}工] 病床利用率等 高度急性期:75%、急性期:78% 回復期:90% 慢性期:92%

②居宅等における医療の必要量

(単位:人)

2025 年の居宅等における医療の必要量(在宅医療等)	1, 657
(再掲) 在宅医療等のうち訪問診療分	5 5 1

(7) 目指すべき医療提供体制および実現のための施策

- ※ 第5章「目指すべき医療提供体制の実現に向けて」の施策を踏まえ、嶺南圏域 における課題解決に向け、<u>特に重点化すべき施策について記載</u>しています。
 - がん医療など高度な医療は、福井・坂井区域の中核的な病院や舞鶴市内の急性期の病院と連携を図りながら、急性期の治療を終えた患者は、可能な限り嶺南地域で医療を受けられるよう、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟など地域で不足する病棟を整備します。
 - 急性期から回復期、在宅医療に至るまで、切れ目ない医療提供体制を構築するため、地域連携クリティカルパスの活用、およびふくいメディカルネットの参加機関の拡大や利用を促進します。
 - 緊急性の高い脳卒中や急性心筋梗塞等の救急医療については、可能な限り構想区域内で提供できるよう体制を確保します。
 - 地域医療支援病院の指定を含め、公的病院等の役割分担と連携や 産科・小児科の体制について検討し、嶺南地域における効率的な医 療提供体制を構築します。
 - 地域の中核的な病院は、急性期のみならず回復期や在宅支援など 幅広い役割を担い、他の病院や診療所と、患者情報の共有や緊急時 の患者受入れ等の連携を図ります。
 - 誰もが身近な地域で安心して医療が受けられるよう、医師や看護 師、薬剤師等の医療従事者の確保に取り組みます。
 - 訪問看護の利用者の増加やサービス提供の高度化に対応するため、 看護師の確保や訪問看護ステーションの連携を推進します。